

## シラバスの現状と課題

中西 宏文\* 山本 幸枝\*\*

\*情報教育講座

\*\*愛知教育大学卒業生

### Current Status and Issues of Syllabus

Hirobumi NAKANISHI\* and Yukie YAMAMOTO\*\*

\*Department of Information Sciences, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

\*\* Graduate, Aichi University of Education

#### 1. はじめに

近年、大学における授業に関し、学生が受講授業を選択する際の参考資料として、また、大学外に対して大学の教育を可視化する手段として、シラバスの重要性が増している。現在、多くの大学で Web を利用してシラバスが閲覧できるようになっているが、いざ閲覧しようとした場合、大学ごとにシラバスを閲覧するまでの手順やシラバスの使い勝手が異なり、戸惑うケースが多い。そこで、本研究では、出来る限り多くの大学について、シラバスの現状を調査すると共に、今後の課題を探ることとした。

#### 2. 本学におけるシラバスの変遷

本学においては、早くからシラバスの重要性に着目し、1996年には、当時の総合科学課程情報科学コースにおいて「授業計画」として冊子を作成し学生に配布している。この「授業計画」では、1授業あたり A4版1ページを使用して、授業題目・開講時期・単位数・担当教官・授業の趣旨・授業スケジュール・教科書参考書・関連授業といった内容が掲載されていた。

その翌年からは、大学全体としてシラバスの作成に取り組むこととなり、当初、1授業あたり A4版1/2ページを使用して、情報科学コースで作成した「授業計画」に準じた内容が掲載されることとなった。それまでは、各授業、数行程度の授業概要が配布されるだけであったので、1997年の時点で、ある程度形式の整った「シラバス」が、全国の他大学に先駆けて発行されたことは、特筆に値する。

その後、内容の充実等のため、1授業あたり A4版1ページを使用するように変更された。

また、早くから筆者の研究室を中心に電子化に取り組み、当初、MS-Windows 上で動作するアプリケーション

ソフトとして、2000年頃からは、Web 上で閲覧できるシステムとして開発が進められ使用されてきた。愛知教育大学の現状については、他大学の状況について 3. で述べた後に、4. で述べることにする。

#### 3. 他大学のシラバスの現状

全国の多くの大学で、シラバスを公開しているが、その仕様は様々で、Web 上で閲覧できる場合でも、大学のトップページから、リンクを探してシラバスを閲覧しようとした場合、どこを探したらよいかかわからずに戸惑うことが多い。

そこで、本研究では、2010年1月（愛知教育大学に関しては、2010年4月）時点において、全国の国立大学88、公立大学75、愛知県内の私立大学48校に関して、数種類の観点から調査を行った。

まず初めに大学のトップページからシラバス閲覧までの過程について調査した。次に、シラバス閲覧のページにおける検索方法について、実際に自分が知りたい授業を見つけ出すための重要な手段である検索方法についての調査を行った。

##### 3-1 シラバスのトップページまでの過程

各大学のトップページから、シラバスのトップページまで、リンク等により到達するまでの過程について検証した。調査内容は、必要なクリック数、ページに



図1 愛知教育大学トップページ

到達するまでの操作に関する主観的評価、別ウィンドウが開く回数である。例えば、本学の場合、図1に示す大学のトップページから、「在学生の方」のリンクをクリックする。

図2に示すように、画面右側の3個目の枠内に「シラバス (2010年度)」のリンクが存在する。ここをクリックすることで、学務ネットのサーバに切り替わり、「シラバス照会」のメニューが表示され(図3参照)、そこをクリックすることで、検索用の画面(図4参照)が表示できる。つまり、クリック回数3回で、シラバス検索のトップページが表示される。



図2 在校生向けページ



図3 シラバス選択ページ



図4 シラバス検索トップページ

このように、大学のトップページから、シラバス検索のトップページまでに必要なクリック回数を調べた結果を、表1に示す。

クリック数2の大学が最も多いが、これらの大学の大半は、「在校生ページ」「シラバス」とクリックするケースであり、シラバスページの前に学部等の所属や開講年次等を選択する必要がある場合は、3回となるケースが多かった。また、東京大学や京都大学など、大学ホームページからいったん各学部のホームページへ移動する必要があり、そこから在学生ページまたは教務のページからシラバスページへとたどらなければならないためにクリック数が増えている。なお、愛知

教育大学の場合、図2のページから図4のページを表示することで、クリック数2回と出来そうであるが、この時にサーバが切り替わり、そのサーバでは、図3のメニュー画面からしか図4の画面に移行できないため、クリック回数が1回増えている。

表1 大学トップページからシラバス検索までの必要クリック数

クリック数	大学数		
	国立	公立	私立(愛知県内)
1	4	4	1
2	47	24	11
3	22	10	11
4	6	0	4
5以上	5	0	1
閲覧不可	1	36	19
サイト内検索	1	1	1

次に、ページに到達するまでの操作に関する主観的評価について述べる。この評価は、A-Cの3段階で行った。評価結果を表2に示す。

表2 大学トップ→シラバス検索過程の評価

評価	大学数		
	国立	公立	私立(愛知県内)
A	48	17	7
B	11	21	17
C	7	0	5

次のページまでのリンクが見つかりやすく、クリック回数が3回以下の大学などはAとなり、初めてそのページを見ても1分から2分程度でシラバス検索のページまで行けた。しかし、次のページへのリンクが画面をスクロールしないと見つけられなかったりする場合、クリック数が3回以下でもB評価となった大学もあった。同じ名称のリンクを複数回クリックする必要があったり、必要と思われないウィンドウが開いたりしてシラバス検索のトップページに行くまでにストレスを感じるような作りの大学については、C評価となった。

シラバスページが存在しない大学や、シラバスページはあるのに学内専用ページとなっており学外からは閲覧できない場合、サイト内検索や検索サイトで「大学名 シラバス」と検索すればシラバスページがあるのに、大学ホームページからリンクをたどる事ができない大学などは、評価していない。

国立大学ではA評価が圧倒的に多いのに対し、公立大学では僅かな差ではあるがB評価の大学数が上回り、私立大学(愛知県内)では半分以上がB評価である。

これは、国立大学は在学生向けページからシラバスページへのリンクがある場合が多かった事に対し、公立・私立大学では教務のページからシラバスページへ

リンクをたどる場合が多い傾向があったためである。

次に、大学のトップページからシラバス検索のトップページまでに別ウィンドウが作成される個数について調べた。結果を表3に示す。

別ウィンドウは、作成されない場合が大半であり、1個作成される場合は、シラバス検索専用のページが作られるケースであった。最近では、フレームを多用したページが増え、ノートパソコンの画面等で見るケースも多いことを考えると、別ウィンドウを作成する必要性は感じなかった。

表3 別ウィンドウの個数

別ウィンドウの個数	大学数		
	国立	公立	私立(愛知県内)
0	46	29	12
1	37	9	15
2	1	0	2

2-3 シラバス検索ページについて

ここでは、シラバス検索のトップページ以降の検索方法に関する調査結果について述べる。ここで調査した内容は、愛知教育大学の場合、図4に示す検索ページの機能に相当する。

検索方法の命名は、大学によって異なっているが、本研究では、大きく「カテゴリ検索」「キーワード検索」「詳細検索」の3つに分類した。それぞれの分類の特徴は、以下の通りである。

・カテゴリ検索

学部、学科など学生の所属や、授業科目の分類、時間割、担当教員など、特定の項目を選択することにより、キーボードからの入力なしに検索できる方法



図5 カテゴリ検索の例(名古屋大学)

・キーワード検索

特定のキーワードを使用して全文検索などができる検索方法

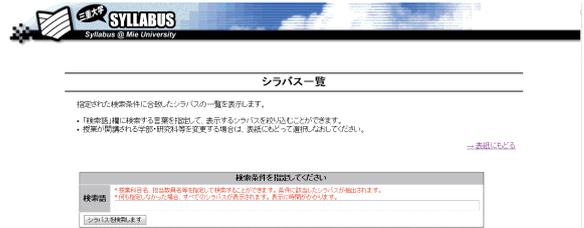


図6 キーワード検索の例(三重大学)

・詳細検索

授業名と担当教員名、授業科目の分類と開講期など、複数項目を組み合わせることで、条件を絞り込んで検索する方法



図7 詳細検索の例(岐阜大学)

このように分類した3分類を、どれくらいの大学が使用しているのかを調べたものが、表4に示すものである。この表からわかるように、カテゴリ検索を提供している大学が最も多く、国立大学では詳細検索の提供も多くなっている。カテゴリ検索の場合、マウス操作のみで直感的に検索できるため、利用者にとって最もわかりやすい検索方法であると思われる。

表4 シラバス検索方法の分類

検索方法の種類	大学数		
	国立	公立	私立(愛知県内)
カテゴリ検索	26	22	9
キーワード検索	5	0	0
詳細検索	28	1	5
PDF	3	6	0
シラバス検索なし	1	16	26

表5 提供している検索方法数

検索方法の数	大学数		
	国立	公立	私立(愛知県内)
シラバス検索なし	2	38	26
1	54	23	13
2	8	5	5
3	6	2	2
4	8	1	2
5以上	4	0	0
PDF	3	6	0

また、シラバスのトップページの検索画面が複数の検索方法を提供している場合もあるので、その提供している種類数を調べたものを

表5に示す。例えば、1つの画面中で、カテゴリをプルダウンメニューで選べ、キーワード入力も可能となっているような構成の場合には、2個となる。

研究の過程で、所属や授業分類によるカテゴリ検索は、検索の容易さという点で必須項目であり、それにキーワードによる全文検索が出来れば、大半の場合、事足りるのではないかと感じた。このような点で、表6に掲げた大学は、機能的には満足できるものを持っている。しかし、カテゴリの分類方法が不適切な場合、必ずしも使い勝手が良いことには結びついていないのも事実である。

国立	公立	私立(愛知県内)
筑波大学	横浜市立大学	愛知学院大学
山梨大学	金沢美術工芸大	愛知淑徳大学
大阪大学(文学)	大阪府立大学	同朋大学
奈良教育大学		名古屋音楽大学
岡山大学		
高知大学		

表6 カテゴリ検索と詳細検索を提供している大学

表7は、シラバス検索をする段階で別ウィンドウが作成される個数を調べた結果である。別ウィンドウは作成されないか、作成されてもせいぜい1個という結果になった。とくに国立大学では、別ウィンドウは作成されない大学が圧倒的に多い。別ウィンドウが開く場合に多かったのは、授業内容の詳細を新しいウィンドウで表示させるというパターンである。これは、同じ内容の授業が複数あるとき、それぞれ比較ができるなどの利点がある。

別ウィンドウの個数	大学数		
	国立	公立	私立(愛知県内)
0	46	29	12
1	37	9	15
2	1	0	2

表7 別ウィンドウの個数

3-3 検索画面について

多くの大学の調査を進める内に、複数の大学で全く同じか、もしくは非常に類似した画面を持つ大学が存在することがわかった。以下は、検索画面に関して、使用しているシステムが判明した大学について、「大学オリジナル」のもの、それ以外の市販システムである「NTT DATA KYUSHU」「Campus Mate」「e-syllabus」「Cybozu」「UNIVERSAL PASSPORT」に分類したものである。

・大学オリジナルの大学一覧

北見工業大学	北海道教育大学	富山大学
金沢大学	北陸先端科学技術大学院大	福井大学
名古屋工業大学	三重大学	滋賀大学
徳島大学	茨城県立医療大学	大阪府立大学
山口県立大学	福岡女子大学	長崎県立大学
熊本県立大学		

・NTT DATA KYUSHU



図8 NTT DATA KYUSHUの採用例(佐賀大学)

NTT DATA KYUSHUの大学一覧

茨城大学	新潟大学	静岡大学
鳥取大学	佐賀大学	高知工科大学

・Campusmate



図9 Campus Mateの採用例(横浜市立大学)

Campus Mateの大学一覧

東北大学	奈良女子大学
横浜市立大学	名古屋市立大学

・ e-syllabus



図 10 e-syllabus の採用例 (山梨大学)  
e-syllabus の大学一覧  
山梨大学 愛知淑徳大学

・ Cybozu



図 11 Cybozu の採用例 (弘前大学)  
Cybozu の大学一覧  
弘前大学 岡山大学 金沢美術工芸大学

・ UNIVERSAL PASSPORT



図 12 UNIVERSAL PASSPORT の採用例 (愛知教育大学)

4. 愛知教育大学の現状

愛知教育大学では、2009年度まで筆者の研究室で開発したシラバスシステムを継続して使用して、シラバスの運用を行ってきたが、2010年度は、学生向けの教務情報システムである「UNIVERSAL PASSPORT」上での運用に切り替えられた。

ここでは、2009年度までのシステムと2010年度のシステム、それぞれについて利点・欠点などについて述べた後に、5で今後の理想的な形態について考察する。

2009年度までのシステムは、当初、データ管理のためのデータベースシステムとして有償の Oracle を使用して出発した。しかし、当時 Web を通じてのアク

セス数もライセンスとして必要など、今日では考えられないような制約もあり、2000年度以降 Web で公開するに当たり、データベースシステムをオープンソースである MySQL に切り替えるとともに、システムの記述言語を PHP (一部 Java Script を含む) とした。このことにより、ソフトウェアの維持管理に必要なコストがなくなり、冊子での配布を止めたことと併せて、大きな経費節減ができた。また、2002年度までは、紙媒体により提出を受けた原稿を手作業で専用システムを使用し、学生アルバイトにより入力するという形態をとっていた。2003年からは、データ入力も教員が直接できるようにした。この際に、データの所有者やデータ更新などに関して、さまざまな問題も生じたが、独自に開発したシステムのため、毎年、改良を重ね、2005年度あたりからは、かなり安定して稼働させることができてきた。

この間、大学を取り巻く諸情勢が厳しくなり、シラバスに関しても文部科学省から指導もあり、全開設授業に関して記載することとなった。しかし、開設授業等に関する情報は、教務課で管理する UNIVERSAL PASSPORT の中に登録され、また複数の授業を同じシラバスで開設する場合もあり、独自開発のシステムとの親和性が悪く、全授業に関して、シラバスが個々に登録されているかどうかを把握することができなかった。また、学生の研究の一環として作成してきた面もあり、急なシステム変更に対応できないなどの問題点もあった。また、一研究室のみで研究開発をしていたために、過年度のデータを閲覧したい場合など、データ管理の点で難があった。

そこで、2010年度分に関しては、2009年11月になって急遽記載事項の変更等を求められ対応が困難であった等の理由も加わり、UNIVERSAL PASSPORT の中で機能を追加購入し対応することとなった。このことによる利点として、教務課で管理している履修課程表や毎年の開設授業一覧、授業時間割表などとの連携が容易になり、また、各年度のデータは蓄積保存されているため、過年度のデータを抽出することも容易になった。但し、前システムから引き継いだデータは2009年度分のみなので、実際に過年度参照が役立つのは、数年先のことになる。そのような利点がある反面、UNIVERSAL PASSPORT で用意されているユーザーフェイスを使用する必要があり、特に、データ入力時には、1つの授業を登録するために、数十回のマウスクリックが必要であり、項目毎に確認画面が表示され OK しないと次に進めないなど、利用者の立場に立った設計がなされているとはいえ、実際にデータを入力する教員の間では不評である。

閲覧する学生側の立場で評価すると、「科目名称」「教員名」「キーワード」のいずれかの枠内に、キーワードから語句を入力するか、曜日時限をクリックして選

択した後に、検索ボタンをクリックすることで、ようやく該当する科目名一覧が表示され、その中から科目名をクリックすることで、ようやく授業内容の詳細が閲覧できる。以前のシステムでは、今回の調査結果から判明したように、他大学で多く用いられているカテゴリ検索や詳細検索の機能を持っていたのに対して、例えば、どのような教育単位があり、その中で開設されている授業は何があるのか、といった高校生が身近に知りたい情報を得ようとしても、システムからだけでは、そのような情報を得ることができなくなってしまっている。他大学で当然のように用意されている「カテゴリ検索」がなくなってしまったのは、システムとしての利便性が大きく損なわれたと言わざるを得ない。

今後、2010年度からのシステムの中で、他大学にある利便性の高い検索機能が再現されることが望ましいが、市販のシステムである以上、機能を追加するには、それ相応のコストがかかり、2010年度のシステムを実現するだけでも多大なコストを要した現状を考えると、実現困難である。

## 5. 今後の展望

ここでは、2010年度変更になった愛知教育大学のシステムに関して、今後のあるべき姿について、展望する。

2010年度の新システムでは、データ管理に関して、開設授業・時間割表・履修課程表といった学生が授業を履修する上で必要不可欠なものとしてリンクしておりデータの蓄積・管理も容易であると考えられる。

シラバスシステム全体の利用者について考えた場合、データを入力する側の立場では、一度データを入力してしまうと、極端な場合、1年以上先まで入力画面に接することはない。しかし、閲覧側にとって考えた場合、利用者は1年中、しかも、その授業の当事者に限らず、高校生はじめ社会一般の人々から閲覧されている。

そのような立場で考えると、入力時のインターフェイスに関しては、データ管理の面から、UNIVERSAL PASSPORTを使用し、データ入力終了した時点もしくは、年間数回のデータ更新時期を設定し、その時にUNIVERSAL PASSPORTからデータをエクスポートし変換した上で、カテゴリ検索等が容易に出来る2009年度までの閲覧システムに近い形で閲覧に供することが望ましいと考える。その際には、曜日・時限等、これまでシラバスで利用されていなかった情報も検索に利用できるようにすることで、より良い愛知教育大学独自のシステムができあがることが期待される。

## 6. まとめ

近年、文部科学省などの指導も加わり、多くの大学で整備されるようになってきたシラバスシステムの現状について、国公立大学および愛知県内の私立大学について調査を行った。

また、全国の大学に先駆けて Web 上でシラバスを公開してきた愛知教育大学のシラバスに関し、その変遷および現状の問題点を指摘することにより、今後、さらに普及が進むことが予想されるシラバスの理想像について考察した。

愛知教育大学の場合、これまでに独自開発を行ってきた閲覧システムと、データ管理の面で有利な UNIVERSAL PASSPORT のシステムを組み合わせることにより、2009年度までのシステムおよび2010年度導入されたシステムを超える利便性を、閲覧者側に提供することが期待される。

## 参考文献

- (1) 宮前智「インターネット上におけるシラバス閲覧システムの開発と評価」2002年度愛知教育大学大学院教育学研究科修士論文
- (2) 田島典子「授業情報登録システムの開発とオンライン版シラバスの改良」2003年度愛知教育大学情報教育課程卒業研究報告書
- (3) 荒井大介・小林みゆき「授業情報登録システムの改良～効率的なデータ更新方法の実装～」2005年度愛知教育大学情報教育課程卒業研究報告書
- (4) 岡嶋恵光里「シラバスの利用状況解析」2008年度愛知教育大学情報教育課程卒業研究報告書
- (5) 山本幸枝「シラバスの現状調査」2009年度愛知教育大学情報教育課程卒業研究報告書

(2010年9月17日受理)